

報告事項（1） 平成28年度世界遺産に係る動向

1 全般的事項

- (1) 第40回世界遺産委員会（於：トルコ・イスタンブール、平成28年7月10日～7月17日、臨時会合：於 フランス・パリ 平成28年10月24日～10月26日）
- ※トルコ クーデター未遂の影響により、臨時会合が開催された。
 - ・27件の新規登録について審議
 - ・新規登録数 21 件（文化遺産 12、自然遺産 6、複合遺産 3）
（うち1件が「ル・コルビュジェの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－」）
 - ・「拡張」（1件が審議、不承認）
 - ・平成29年3月現在 1,052 件（文化遺産 814、自然遺産 203、複合遺産 35）
（うち危機遺産 55）
- (2) 国内の動向
- ア 「ル・コルビュジェの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－」が世界遺産一覧表に記載された。（平成28年7月17日）
- ・17の構成資産（フランスほか7か国に所在）
 - ・日本の構成資産は国立西洋美術館（東京都）
 - ・建築史上初めて、建築の実践が全地球規模のものとなったことを示す物証であり、21世紀建築文化の基盤であり続けている点が評価された。
 - ・世界遺産委員会は、保存管理を主とする9項目の課題を決議し、それらについて、平成29年12月までにユネスコへ提出することが要請されている。
- イ 「紀伊山地の霊場と参詣道」（和歌山県・奈良県・三重県）の（境界線の）軽微な変更が承認された。
- ウ 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連資産」（長崎県・熊本県）の推薦書がユネスコへ提出された。（平成29年1月）

2 今後の国内推薦に関して

- (1) 平成29年度（及び30年度）にユネスコへの推薦を希望する案件については、今年度末までに文化庁へ推薦書（要旨）等を提出する。
- 29年度想定対象：「縄文」、「佐渡」（新潟県）、「百舌鳥・古市」（大阪府）
- ※「平泉」（拡張）は平成30年度推薦希望
- (2) 7月ごろ、文化審議会世界遺産特別委員会が開催され、平成29年度にユネスコへ推薦される文化遺産が審査される。（1件のみ。）

3 世界遺産の保存管理に係る情報提供

（1）緩衝地帯における保存管理課題が顕在化している事例

「古都奈良の文化財」（1998年記載）（奈良県）

○平城宮跡（8か所ある構成資産のうちのひとつ）

事業計画：奈良県が、世界遺産内にある近鉄奈良線を移設し、宮跡を歴史的遺産として保護し景観を改善すると同時に、線路を地下又は高架にして沿線の渋滞解消と再開発を進めようとするもの。

現 状：奈良県が住民に対してアンケートを実施したうえで事業計画を策定予定。

論 点：世界遺産の顕著な普遍的価値への影響の有無
埋蔵文化財への影響

■岩手県内の世界遺産の保存管理において参考となる事項：

- 1 世界遺産としての顕著な普遍的価値の保護のあり方
⇒住民合意を踏まえて、世界遺産への負の要因の除去に向けた取組を進めようとしていること。
- 2 世界遺産の構成資産の維持のあり方
⇒移設が困難と考えられている大規模な構造物に対しても、理想形を共有して長期的に取組む必要があること。